



モータースポーツ活動をバックボーンに

走りの楽しさを引き出すのがコンセプト

足回りはtanabe、ホイールはSSRと、ふたつのブランドを展開するタナベ、いずれも走りやスタイルのブラッシュアップに欠かせないフットワークアイテムを手がけているのだが、これまでは個々にユーザーニーズを満たすための製品開発が行われていた。

「走りに対する想いを満たすために立ち上げられたブランドルーツや、物作りへの誇り、こだわり、モータースポーツ活動などといった具合に、両ブランドはフットワークというジャンルだけでなく同じジャンルで製品開発へ取り組んでいます。ただ、これまでは足回りは足回りに留まっていた。

そこで新たに立ち上げたのが、両ブランドをクロスオーバーさせていくGTシリーズです。SSRでは2013年にレーシングホイールの開発思想やテクノロジーをダイレクトに注ぎ込むGTを立ち上げていたのですが、同じジャンルでtanabeでも約2年前から足回りの開発をスタートし、今はまだカスタムスプリングと車高調の2アイテムで適合車種の拡大に力を注いでいる段階です。ゆくゆくはターゲット車種にベストマッチなホイールを与え、上で足回りの最終チェックを行う」といった具合に、両ブランドが密接にリンクした体制でGTシリーズ開発へ取り組んでいきたいと考えています(マーケティング部 土居さん)

「走りに対する想いを満たすために立ち上げられたブランドルーツや、物作りへの誇り、こだわり、モータースポーツ活動などといった具合に、両ブランドはフットワークというジャンルだけでなく同じジャンルで製品開発へ取り組んでいます。ただ、これまでは足回りは足回りに留まっていた。

「走りに対する想いを満たすために立ち上げられたブランドルーツや、物作りへの誇り、こだわり、モータースポーツ活動などといった具合に、両ブランドはフットワークというジャンルだけでなく同じジャンルで製品開発へ取り組んでいます。ただ、これまでは足回りは足回りに留まっていた。」

「走りに対する想いを満たすために立ち上げられたブランドルーツや、物作りへの誇り、こだわり、モータースポーツ活動などといった具合に、両ブランドはフットワークというジャンルだけでなく同じジャンルで製品開発へ取り組んでいます。ただ、これまでは足回りは足回りに留まっていた。」

「走りに対する想いを満たすために立ち上げられたブランドルーツや、物作りへの誇り、こだわり、モータースポーツ活動などといった具合に、両ブランドはフットワークというジャンルだけでなく同じジャンルで製品開発へ取り組んでいます。ただ、これまでは足回りは足回りに留まっていた。」

「走りに対する想いを満たすために立ち上げられたブランドルーツや、物作りへの誇り、こだわり、モータースポーツ活動などといった具合に、両ブランドはフットワークというジャンルだけでなく同じジャンルで製品開発へ取り組んでいます。ただ、これまでは足回りは足回りに留まっていた。」



高性能に安心・安全を添えるために図られる物作りの進化。そして、先進技術とともに極限のステータスを誇るモータースポーツから積極的なフィードバックを行なうタナベの姿勢をそのままに、走りのキリドでリクエストしたtanabe & SSRのGTブランドスポーツカーとスポーツグレードに、純正では味わうことができないワンランク上の走りをもたらしてくれる注目のスポーツブランドだ!

高性能に安心・安全を添えるために図られる物作りの進化。そして、先進技術とともに極限のステータスを誇るモータースポーツから積極的なフィードバックを行なうタナベの姿勢をそのままに、走りのキリドでリクエストしたtanabe & SSRのGTブランドスポーツカーとスポーツグレードに、純正では味わうことができないワンランク上の走りをもたらしてくれる注目のスポーツブランドだ!

tanabe × SSR

2大ブランドがクロスオーバーする

スポーツアイテムの革新

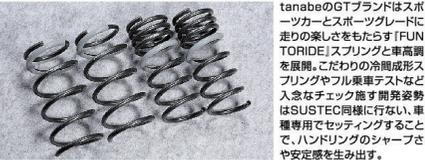
足回りブランド「tanabe」とホイールブランド「SSR」を有し走りやスタイル双方遊び澄ますフットワークの総合メーカー、タナベ。今回クロスアップする“GT”は長年にわたるモータースポーツ活動、そして日々革新してきた匠の技術力で安心と安全を添えたストリートアイテムをプロデュースしてきたふたつのブランドがスポーツをキーワードにクロスオーバーする注目のファミリーブランドだ!

© タナベ ☎072-728-6700 <https://www.rd-tanabe.com>

足回りと同様に安心・安全を大前提としてスポーツホイールの開発に取り組むSSRは、JWLやVIAといった安全基準を遙かに凌ぐ独自の基準を設け、要求するホイール剛性が確保された後に走りの楽しさへつながる軽さを引き出していき、モータースポーツで培ったノウハウをストリートというレギュレーションに則ってフィードバックしていくのがGTブランドだ。



SSRのGTブランドはストリートに映えるスポーティなルックスを引き出したGTV(写真右)と、性能とスポーティを高次元で両立したGTX(写真左)で展開されている。スポーティさを気軽に楽しみたいユーザーから、走りを楽しむユーザーまで幅広く満たしたいラインアップだ。



tanabeのGTブランドはスポーツカーとスポーツグレードに走りの楽しさをもたらす「FUN TORIDE」スプリングと車高調を展開。こだわりの冷間成形スプリングやフル乗車テストなど入念なチェック態勢で開発姿勢はSUSTEC同様に行ない、車種専用でセッティングすることで、ハンドリングのシャープさや安定感を生み出す。



これまではtanabe、SSRで個別に取り組んでいた開発体制。しかし、両ブランドをクロスオーバーさせたファミリーブランドのGTが誕生したことによって、タナベが一貫して掲げている走りの楽しさを引き出すスポーツカーとスポーツグレードで一層加速していくだろう。



ハンドリングや乗り心地などを高めるために、ボディチューニングも精力的に図るSUSTEC。スポーツカーやスポーツグレードのボディチューニングパーツはSUSTECで展開されているが、強固なプレート形状で左右を結ぶアンダーブレースの開発アプローチはGTのものと言っている。





プリロードを変えることなく車高調整が可能な全長調整式で、セッティングも自由自在。緩みにいテーパー型ブラケットロック、高剛性をタフなブラケットはSUSTECで高評価を集めるものだ。



静音性に優れたゴムアップパワードで、ストラットタイプはキャンバー調整機構も備える。また、リニア立ち上がりこだわったダンパーは、40段階の減衰力調整によって好みや走行ステージを広くカバーする。

GT FUNTORIDE DAMPER

価格：¥158,000~¥206,800

適合車種：RC-F(USC10)、カローラスポーツ(NRE210 H・ZWE211H)、86(ZN6)、フェアレディZ(Z34・Z33)、BRZ(ZN6)、WRX S4(VAG)、スイフトスポーツ(ZC33 S)、コペンGRスポーツ(LA400A・LA400K)
開発予定車種：スープラ(DB42/22・82)、ノートNISMO(HE12・E12)、ロードスター(NDSRC/NDERC)、WRX STI(VAB)



スプリングは超剛減衰性能を採用し、軽さと剛性を引き出したP.A.R.O.®を用い、ストローク時に発生する摩擦音や音動音をシャットアウトして快適性を高めるため、スプレッドと特殊樹脂を量産したストラットや大径ベアリングも採用している。

タナベマーケティング部
林 正美さん



SUSTECはダウン量や乗り心地にウエイトを置いて幅広い車種をカバーしてきましたが、新たに展開するGTファントライドはスポーツカー&スポーツグレード専用として、走りの楽しさにウエイトを置き、快適性とともに入馬一体感を引き出しています。ノーマルでは走りや物足りないけど乗り心地はキープしたいといったストリートユーザーに、ぜひ味わっていただきたいですね。

スポーツカー&スポーツグレードに
シーンを問わず走りの楽しさを提供

GT FUNTORIDE DAMPER



GT FUNTORIDE SPRING

リーズナブルに走りの楽しさを引き出したいユーザーに向けて、スプリングのみを交換するファントライドスプリングもラインアップ。スポーツカーやスポーツグレードに相応しいスタイル、ストローク量、スプリングレートで設計されたスプリングは、キビキビとしたハンドリングでコーナリングを楽しむさせてくれる。

スポーツを軸として幅広く走りの楽しさを引き出すことをコンセプトとするGTブランドで、tanabeが中核を担うアイテムとしてスポーツカー&スポーツグレードへ展開するのがファントライドダンパーだ。「FUN TO RIDE」、乗ることが楽しいという意味合いがネーミングへ込められていることから分かるように、セッティングテーマは妥協なきしなやかさ。これはGTだからといって不快な硬さがつきまとうような速さの引き出しに寄せるのではなく、スポーツカー&スポーツグレードに与えられるキビキビとしたハンドリングを、減衰力のリニアさや路面追従性の底上げで快適に高めていこうといったものになる。

そうしたスタンスから、ターゲットステージは市街地からワインディングだ。開発時はノーマルの味付けや狙いをしっかり見極めた上で、操縦安定性を高めるのに必要な車高ダウン量をはき出し、スプリングやダンパーの最適化へ着手。40段階の減衰力調整や全長調整機構がもたらす幅広いアレンジ能力を積極的に活用することでサーキット走行も問題なく楽しめる懐深さを持つが、速さよりも楽しさを重視して仕上げられた。

なお、ファントライドダンパーは大容量ベアリングやスラストシート、ツインコーティングで防錆効果高めた高剛性ブラケットなど、安心・安全を高めるために鍛え上げてきたSUSTECのノウハウが余さず注がれている。快適性と耐久性を備えた好ハンドリングを、ぜひ愛車で堪能して欲しい。

熱 間鍛圧でリムを伸ばして剛性と軽さに結びつけるFFT-R製法を用い、鍛造ホイールに匹敵するパフォーマンスが与えられるSSRのGTXシリーズ。その最新モデルとして今春デビューするGTX04は、スポーツホイールの根本となる軽さへこだわってシリーズ最軽量に仕上げられた一本だ。

まずは応力分散性に優れた2x6デザインのスタイリッシュなディスクだが、軽さへ直結するスポークはスリムさや肉抜きだけでなく断面積にまでもこだわっている。

そもそも解析上で必要な剛性確保した開発初期はスリムさと引き替えに断面積増加が強いられれていたのだが、SSRでは表面を鍛え上げるショットピーニング処理をスポークに施すことで、要求されていた断面積の13%削減を実現。サイズによって数値は異なるが、1本当たり400gもの軽量化へと結びつけた。

また、剛性と軽さに結びつけるFFT-R製法に関して、インナーリムが一層軽さと剛性を両立させるようにリムプロファイルとともに設計を見直し。シリーズ最軽量の名に恥じない仕上がりを目指し、見た目にはわからない部分にまでミリ&数グラム削減を細かく積み重ねている。

ハイパフォーマンスなマシンの足元を支える運しさをしっかり備えながら、優れた運動性能を引き出す軽さを徹底して突き詰めたGTX最新モデル。研ぎ澄まされた軽量性から放たれる繊細な造形美は、静動の間わず高い満足度をもたらしてくれるだろう。

INCH	SIZE	HOLE	P.C.D.	INSET	FACE	PRICE(without tax)
18	7.5J	5	100	48	SMI	¥41,000
			114.3	50	SMI	
	8.5J	5	100	44	SMI	¥43,000
			112	44	SMI	
	9.5J	5	114.3	44	SMI	¥45,000
			100	40	CV	
10.5J		5	114.3	22.40	CV	¥51,000
			114.3	15	SC	
19	8.5J	5	114.3	38.45	CV	¥49,000
			112	25	CV	
	9.5J	5	114.3	38	SC	¥51,000
			120	38	SC	
10.5J	5	112	35	SC	¥53,000	

※カラー：ターガガメタ ※付属品：アルミエアバルブ、FFT-Rステッカー ※センターキャップ別売り

GTX04

スポーツホイールの根本を突き詰めた
GTXシリーズ最軽量モデル!



タナベマーケティング部
土居 正剛さん

GTX04は軽さの追求にこだわり、重量にも中心に影響するスポークを中心に各パーツのシェイプアップに取り組みました。サイズによって重量は異なりますが、10.5Jx18+15ではGTX01の10.72kgに対して8.95kgといった軽さです。もちろん、軽さだけを突き詰めるのではなく、タイムアタックやドリフトといったシーンでも安心して使える剛性をしっかり確保しています。



「ホイールはホイールとして、タイヤはタイヤとして、それぞれをしっかりと区別して、それぞれの性能を最大限に引き出す。ホイールはホイールとして、タイヤはタイヤとして、それぞれをしっかりと区別して、それぞれの性能を最大限に引き出す。」



熱間鍛圧でリムを伸ばすSSRのFFT-R製法は、鍛造でも鍛造に迫る剛性と軽さを実現する。GTX04はFFT-R製法の採用だけでOKとせず、さらなる軽さとつながるインナーリムの見直しも図ってきた。



スポークをスリムに仕上げるだけでなく、裏面のわずかな肉厚までも肉抜き処理。解析で剛性確保に要求されていた断面積はショットピーニング処理でスポーク裏面の裏面を鍛え上げることにより、13%削減を果たしている。



センターパートからリムフランジまで最短距離で結ぶスリムスポークは、フランジ部でリムを構成して剛性引き出しを図っている。なお、フェイスはセミコンケープ、コンケープ、スーパーコンケープの3タイプだ。

「GT」のイメージが強いGTブランドは、SSRが走る楽しさを引き出すために、GTブランドの魅力を引き出すために、tanabe & SSRのGTブランドは要チェックだ!



今回はサーキット走行なので前後45mmダウンとしたが、最低地上高を考えるとストリートでは前後25mm~30mmダウンになるとの判断。開発済みのSUSTECアンダープレースがクリアランスにどう影響するかも踏まえて推奨車高を決めている。

SUSTECで人気のアンダープレースは、フロントメンバー後方の貧弱な純正補強をプレート形状でガッツリと剛性を高めるフロント用、リヤはフレームを左右で強固に結ぶ形状のアンダープレースが開発完了している。



取材時はリリース前ということもあり、今回のテストでは8.5J×18+44のGT×04に、225/40R18のディレックスZⅢがマッチングされた。土層さんによれば「キャンバーなどは要求されますが、ツラを攻めるなら9.5J×18+40に255/35付近のマッチングがターゲットサイズになりそうだな」とのこと。



Impression 81 シャーク井入

雪のちらつくウェット路面だったけど、攻め込んでも唐突な動きは一切なし。乗り心地が良い中でマシンの挙動がしっかり伝わってくるから、安心してスポーツ走行が楽しめるよ。補強パーツについては路面状況も悪いし正確には評価できないけど、路面からのインフォメーションが高いから効果を引き出しているんじゃないかな。テスト前に、走りを楽しむのがコンセプトでストリートがメインステージと聞かされていたけど、この味付けなら普通にスポーツラジアルと減衰力調整だけでサーキットだって十分楽しめる。実際に、減衰力を前後10段階ずつ締め込んで再度コースインしたら、初期ストロークのマイルさは残したまま粘って来て、扱いやすさも頼もしさが備わった。ワイドレンジに走りを楽しむの仕上がりだから、GRヤリスのオーナーはリリース楽しみにしておきたいね。

純正はリヤが硬めのセットアップとなっているため、フロントは152%&1177%、リヤは163%&193%アップのプロトモデルでSUSTECの強化スタビライザー開発がスタート。今回はソフト側で走行したが、調整式を採用するかどうかやレートアップ値はテストを重ねて決定していくそうだ。



GT×SSRのPRリットを注いだGRヤリスは開発途中ながらバツグンの完成度!

走りのキーワードでリンクしたtanabe & SSRのGTブランド。立ち上げから間もないtanabeのGTブランドはフロントライ드의適合車種拡大を図っている真つ最中だが、ここで見逃せないのは、トヨタ生粋のスポーツモデルとして広く注目を集めているGRヤリスの開発状況だ。

「GTフロントライ드는スプリング、ダンパーともに開発予定車種が数多く控えている状況ですが、特にスポーツ走行性能が評価されるGRヤリスはいち早く仕上げるべきと考えて、開発スピードを上げるためにデモカーを導入しました。現状はGTブランドだとフロントライッドスプリングが完成して、フロントライッドダンパーを開発中、SUSTECブランドはタワーバーやアンダープレースが完成して、スタビライザーの開発を進めている真つ最中です(マーケティング部 林さん)。

ちなみに、tanabeではパーツ単体での投入や、投入の順序を問わずチューニング効果が引き出せるように、それぞれのパーツはノーマル状態で開発していく。つまり、フロントライッドダンパーなら補強パーツやスタビライザーを未装着状態とするだけでなく、タイヤ・ホイールさえもノーマルで開発が進められているのだ。

そこで今回は「ゆくゆくはターゲット車種にベストマッチなホイールを装着した上で、足回りの最終チェックをする」といった具合に、両ブランドが密接にリンクした体制でGTブランドの



GT X GR YARIS

セントラルサーキット開発現場に潜入



フロントライッドダンパーのプロトモデルは、前後3.6kg/mmのノーマルに対して、前後5kg/mmにレートアップ。ダンパーモーションを問わずに積極的にストロークさせられる床付けがベストと考え、ダンパーテスターで計測したノーマルの減衰力特性を全体的に引き上げる形からスタートする。

リリース待ちだがSUSTECのタワーバーは前後ともに開発完了。断面積を従来比で約1.6%拡大したオーバル形状のシャフトでねじ剛性を約1.8%高めるストラットタワーバーが、ハンドリングの頼もしさを高めている。

